

# 令和3年度 海田町立海田西中学校 研究推進計画

## 1 研究主題、研究内容・方法等について

### (1) 研究主題

主体的に学びを深める生徒の育成  
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

### (2) 主題設定の理由

本校の生徒は、提示された課題に対して真摯に取り組むことができる。家庭学習ノートへの取組も定着し、確実にノート提出をして、力を伸ばしている生徒が多くいる。また、自らが課題を見つけ、目標や課題意識をもち、自ら進んで粘り強く学習に取り組んでいる生徒が多くおり、令和2年度に実施した標準学力調査の、「家で、週に何日くらい勉強しますか」に対して肯定的に回答（ほぼ毎日、もしくは4～5日）した生徒の割合は、第1学年の生徒が78.6%（全国平均72.7%）、第2学年の生徒が76.0%（全国平均63.3%）であった。また、同調査の、「家で授業の予習や復習をしていますか」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は、第1学年で61.4%（全国平均58.1%）、第2学年で52.0%（全国平均45.5%）であった。これらのことから、学習意欲をもち、自ら進んで学習できる生徒が多く見られ、これまで取り組んできた西中授業システムや家庭学習ノートなどの取組の成果であると考えられる。

また、昨年度重点を置いた「振り返り」については、校内生徒アンケートにおいて、「学習したことを振り返って、自分の考え方が変化したり、できていることが増えたりすることに気付いています」に対して、肯定的回答の生徒の割合は、1学年88%、2学年85%と、振り返りの場面において、自己の学習をメタ認知する力が身に付きつつあると考えられる。

一方で、平成31年度全国学力学習状況調査において、国語の正答率が84%、数学の正答率が77%、英語の正答率が62%であり、県平均の数値よりどの数値も高いものの、重点課題として国語は「話し合いの方向を捉えて自分の考えを持つ」の正答率が71.6%、数学は「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の正答率が64.2%、英語は「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる」の正答率13.4%、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」の正答率0.0%と、自分の考えを相手に分かりやすく示したり、説明したりする表現力に課題があることがわかる。

このことを踏まえ、学校教育目標の「一步前へ！果敢に挑戦」のもと、確かな学力の定着に向け、教えるべきことはしっかり教え、生徒の思考を促す深い学びの実現に向けた授業の在り方を再構築していく。本校は昨年度に引き続き、「見通し」「協働」「振り返り」の3つの視点を意識し、3つの中で、「振り返り」に重点を置き、より効果的に学びを達成できるように、研究を進める。

### (3) 研究仮説

仲間とともに意欲的に学びを深めていくペア学習やグループ学習の質を更に高め、生徒の思考が単元を通してつながりのあるものにしていくために、「見通し（主体性）」「協働（コミュニケーション能力）」「振り返り（メタ認知）」の3つの視点を意識した授業づくりを行う。具体的には、単元の見通しで評価する内容、つまり、単元を通して付けたい力（生徒のゴールの姿）を明確にし、そこから逆向き設計で単元を構想し、必要な学習活動を設定する。単元が始まる前に、生徒と教師が学びの方向性を共有し、生徒の思考に意味をもたせ、次の学びにつながっていくようにする。学びが充実するように、単元の導入部分や協働の場の在り方や方法についても研究を進める。今年度重点を置く「メタ認知（振り返り）」では、授業または単元の目標に対する振り返りを生徒自らの言葉で十分に表現させ、学びの達成感を味わわせる。また、振り返りの中では、「分かったこと・できるようになったこと」「まだ分からないこと・練習が必要なこと」「以降の授業で意識すること」の3点を軸に、自己の学習到達度をメタ認知させながら、次の学びや日々の活動への意欲へとつなげていく。その際、単元開始前に生徒と共有しているルーブリックを振り返りの材料・視点として活用する。

これまで取り組んできたHRでの学習などの取組についても、生徒の学習の基礎を培うとともに、更なる目標を持たせ、挑戦する心を育てるために、継続させる。

これらの取組を継続すれば、生徒は目標達成のために思考を働かせ続け、自ら学び、主体的で深い学びが実現することができるであろう。

### (4) 研究内容

- ア 生徒の思考を軸としたバックワードデザインによる単元構成の見直しと創造
  - イ 生徒指導の三機能をいかした西中授業システムによる授業改善
  - ウ 振り返りの在り方やフィードバックの仕方
  - エ 家庭学習や HR での学習で、基礎を定着させるとともに学習習慣を身につけさせる指導の充実
  - オ ジョイスタや読書活動、NIEなどを活用した、生徒の学ぶ意欲を引き出す取組の充実と工夫
  - カ ICT を効果的に活用した授業づくり
- (5) 検証の指標
- ア 各種学力調査等の結果  
(「基礎・基本」定着状況調査質問紙、全国学力・学習状況調査、標準学力調査等)
  - イ 授業及び生活に関する意識調査(生徒、教師、保護者)
  - ウ 授業評価(教師)
  - エ 単元構想図による「課題発見・解決学習」の単元開発(一人1本)

## 2 校内研修計画

- ア 年に1回以上、ルーブリックをもとに単元案を作成し、研究授業を実施
- イ 研究主題に基づいた理論研修の実施
- ウ 本校の授業スタイルの確立、共有化を図るための研修会の実施
- エ 年間1回の全教員による授業研究会の実施(指導主事招聘)
- オ 年間を通したグループごとによる授業相互参観及び意見交流会の実施

### ※アについて(計画)

4月研修(ルーブリックの作成について) → 6月 校内研究授業 →  
6月指導案略案作成・検討 → 7月指導案作成 → 8月模擬授業 → 9月公開研役割分担

## 3 検証計画

- (1) 各種学力調査の結果・誤答分析
- (2) 学校評価アンケート(前・後期)の実施(対象は生徒、保護者)
- (3) 授業に対するアンケート(前・後期)を実施(対象は教師)
- (4) 相互の授業参観による授業評価の実施

## 4 研究公開等の予定

公開予定日	令和3年10月20日(水)
内容	海田西中学校公開研究会

# 令和3年度 海田町立海田西中学校 研究構想図

